

国語科学習指導案

指導者 松浦竜也

- 1 日時 平成28年1月27日(水) 第5校時
- 2 学年・組 第2学年3組 30名
- 3 単元名 「あったらいいな こんなもの」
- 4 指導事項と言語活動

(1) 指導事項

○相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。

(「話すこと・聞くこと」イ)

○姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。

(「話すこと・聞くこと」ウ)

・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

(事項(1)イー(ア))

(2) 言語活動

○組み立てを考えて、発表する。

本単元では、自分にとってあったらいいなと思うものを考え、相手にそのよさを伝えることを目標に説明の練習をし、発表会を行う。まず、あったらいいなと思うものについての「あったらいいと思うわけ」「できること」「形や色、大きさ」をまとめる。この際、「始め」「中」「終わり」と順序立てて発表のためのメモを作る。発表では、相手に語りかけるように、声の大きさ・視線、話す速さの三点に気をつけて発表する。また、聞き手は話し手の発表を聞いて、感想を述べたり、良い点を伝えたり、質問したりする。

5 児童の実態

6 単元目標

○自分が考えた道具について、相手に分かるように、話す事柄の順序を考え、声の大きさや速さなどに気をつけて、話すことができる。

○大事なことを聞き落さないように気をつけながら友達の話聞き、感想を述べたり、質問をしたりすることができる。

7 テーマにせまる手立て

主体的に情報をつかみ、意欲的に情報を生かして学習していく児童をめざして

発表している姿をビデオカメラで撮り、確認する。自分自身が発表している姿を見て、「声の大きさはどうか」「どこを見て話しているか」「どれぐらいのはやさで話しているか」を確認する。普段自分自身の話している姿を見る機会は少ない。客観的に自分自身を見ることに、子どもたちは興味・感心があると考えられ、主体的に情報をつかもうとする姿が期待できる。また、そこで見て思ったこと（声が小さくて聞こえにくかった、視線が下へいつていた、早口で聞き取れなかったなど）を改善していくことが「情報を生かして学習」していくことと設定した。

本時では30人全員分の発表を撮影し、編集したもの（1人10秒×30人＝5分間程度）を導入で見るようにする。特に普段自分自身で確認することが難しい「どこを見て話しているか」については、映像を使うことではじめてわかることが多いと考えられる。しっかりと相手の方向を見て話しているか確認できるように、表情が分かる距離（アップ）で撮影する。さらにタブレットを活用し、グループの中で発表の様子を撮影し合い、自分の姿を確認する時間を設けている。事前に情報の学習として動画の撮影・再生の仕方を指導し、本時の学習に生かす。

8 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
①身近なところから想像を広げ、「あったらいいな」と思うものを考えている。 ②考えたものについて、相手に進んで説明している。	③話す順序（はじめ・なか・おわり）を考えて話している。 ④相手に伝わりやすいように声の大きさ、速さ、視線などに注意して話している。 ⑤相手の話をよく聞き、疑問に思ったことや、感想を述べている。	⑥事物の形や働きを表す言葉の働きに気付いている。

8 指導と評価の計画 (話す・聞く 10時間)

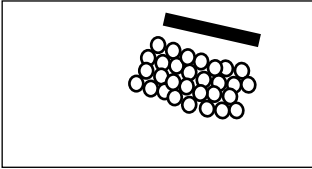
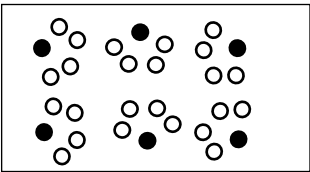
	学習活動と内容 ()発言・感想例	評価規準と指導の手だて (○) <評価方法>
1	「あったらいいな」と思うものを考え、友だちと話し合う。 (空をとべるものがほしいな。) (水の中で息ができるものがほしい。) 考えたものを、口頭で発表する。 学習の見通しをもつ。	①身近なところから想像を広げ、「あったらいいな」と思うものを考えている。〈観察・ノート〉 ○到達度に差が出ても(内容のみ、名称まで決まっているなど)、全員のアイデアを認めて自信をつける。
あったらいいなと思うものを考えて、友だちにほしいと思ってもらえるように発表会をしよう。		
2	あったらいいなと思うものについて、「あったらいいなと思うわけ」「できること」「形や色、大きさ」について、くわしく考え、ノートに書く。	⑥事物の形や働きを表す言葉の働きに気付いている。〈ノート〉 ○自分だけでは気がつかないところまで考えられるように、友だちと対話しながらアイデアを具体化していく。
3 4	発表の組み立てには、はじめ・なか・おわりがあることを知る。 話す順序を考えながら、発表するためのメモを書く。	⑥事物の形や働きを表す言葉の働きに気付いている。〈観察・ワークシート〉 ○教科書「れんしゅうのために書いたメモ」をお手本とする。 ○原稿は書かない。大切なことだけをメモにする。
5	「あったらいいな」と思うものの絵を画用紙に描く。 ・八つ切画用紙使用	①あったらいいなと思うものを、できることや形・色を考えながら進んで絵に表わしている。〈観察・絵〉 ○進んで活動できるよう、自由な発想を認める。
6	発表するときに気をつけることを話し合う。 ・声の大きさはどうするか ・どこを見て話すか。 ・どれくらいのはやさで話すか。 発表の練習をする。(様子を撮影する)	④相手に伝わりやすいように声の大きさ、速さ、視線などに注意して話している。〈観察・発言〉 ○3つの課題を意識して練習するようにする。 ○よい例を共有する。

7 本時	自分が発表している姿を見て、課題を見つける。 ・ 映像（5分間） ・「どこを見て話しているか」を中心に確認する。 （下の方を向いているな。） 見つけた課題について練習する。 （みんなの方を向いて話そう。）	②考えたものについて、相手に進んで説明している。 〈観察〉 ④相手に伝わりやすいように声の大きさ、速さ、視線などに注意して話している。〈観察・発言〉 ○自分自身の課題だけでなく、他の子の発表している姿からも良い点や、改善した方がよい点を見つけるように伝える。
8 9 10	発表会をする。 ・ グループ毎 友だちの発表を聞いて、質問や感想を述べる。 第10時は振り返りを含む	②考えたものについて、相手に進んで説明している。 〈観察〉 ④相手に伝わりやすいように声の大きさ、速さ、視線などに注意して話している。〈観察・発言〉 ⑤相手の話をよく聞き、疑問に思ったことや、感想を述べている。〈観察・発言〉 ○5人それぞれが発表するが、発表している子を他の子が手伝ってもよい。

9 本時目標

- ・自分の課題を見つけ、発表の練習をすることができる。

10 本時展開

学習活動と内容	評価規準と指導の手立て（○）＜評価方法＞
1 話すときに気をつけることを確認した後、めあてを共有する。 ・声の大きさ・速さ・視線	○気をつけるべき点を指摘するように教師が例を示す。
どこを直せばもっと良くなるかを見つけて、練習しよう。	
2 前時に撮影した、発表の映像を見る。 ・1人分10秒 全5分間程度  3 見つけた課題を中心に、練習を行う。 ・1人で行った後、隣の子と2人で、最後は5人(グループ)で、変化をつけて練習する。 ・課題について、聞き手にチェックしてもらう。 	○自分自身の発表について、どのような課題があるかを見つけるよう伝える。また、友だちのよい点や改善点も見つけるように伝える。 ○途中で区切り、感想をきくなどし、着眼点を共有するようにする ○テレビの前に集める。 ○進んで練習している児童をほめる。 ○タブレットを班の数分用意し、発表の様子を撮影して自分でチェックできるようにする。
4 練習の成果を発表する。 ・希望する児童 ・聞き手は、発表する児童のよい点や改善するとよい点についてよく聞いておき、発表後に伝える。 5 次回の予告をする。	②考えたものについて、相手に進んで説明している。 〈観察〉 ④相手に伝わりやすいように声の大きさ、速さ、視線などに注意して話している。〈観察・発言〉 ○発表したことをほめる。良い点を全体で共有する。